



令和6年12月 市民公開講座「高齢化社会におけるACP・人生会議の必要性」講演の様子（伊藤院長）

CONTENTS

- 院長年頭挨拶.....P. 2～
- 診療現場レポート vol. 4～消化管がん～P. 4
- あなたを TEAM で支えます vol. 4～認知症ケアチーム～.....P. 5
- 地域医療連携だより.....P. 6～
- INFORMATION裏表紙



～ 受診される患者さまの権利 ～

1. 個人の人権を尊重した良質な医療を受ける権利
2. プライバシーが保護される権利
3. 納得のいく説明と情報提供を受ける権利
4. 自らの意思で検査・治療法などを選択、あるいは拒否する権利
5. セカンドオピニオンを得る権利

新年のごあいさつ

深谷赤十字病院
院長 伊藤 博

新年あけましておめでとうございます。昨年元旦に能登地震が発生し、慌たらしい年始となりましたが、本年は穏やかな年がはじまりました。私ごとであります。昨年古希を迎え、二十年間在籍した深谷赤十字病院を定年退職いたします。お世話になりました皆さまに深く感謝申し上げます。



深谷での二十年を振り返って

二〇〇五年、五〇歳を迎える時に、ここ深谷の地に単身で赴きました。ほとんど縁のなかつた土地であったところ、赴任当時から医師会の先生方には公私にわたり大変お世話になりました。

深谷という土地は郊外の街で人口密度も丁度よく、私には非常に心地よい環境でした。郷土の偉人、渋沢栄一翁を生んだ土地ということもあり、歴史が好きなことから、関連書をよく読んでおもしろいことに出してあります。「論語と算盤」に記された社会や経営への教えは非常に参考になるものばかりで、この度、新一万円札の顔に選ばれたことは感慨深い出来事となりました。深谷市との関わりについては、埼玉県が医療過疎と言われ、全国一医師数が少ない



土地であることから、奨学金制度を創設頂き、当地に赴任する予定となる医学生への経済的な支えとなつて頂きました。また、元々現在の病院建物建設に対する支援を頂いていたうえに、コロナ禍で経営が厳しくなつたところの運営費支援、がん診療に欠かせない放射線治療装置の経年劣化に伴う更新費用のご支援と多岐に亘ります。そういった意味で、市民の方々への恩返しとしても、市民病院的な役割を果たすことが肝心であると考へております。私自身も市民講座の開催や親子向け病院体験イベントの実施、地域の祭への参加など色々とお手伝いをさせて頂きました。実際に深谷市から奨学金を頂いた医学生が当院の医師となり、この地で医療を行うことで、少しずつではありますが実を結んできたところであります。



深谷赤十字病院での病院経営

病院経営も一般の会社と同じく「人・物・金」が重要です。その中でも病院は人集め、特に医師の獲得が診療に直結します。深谷は東京から七〇キロ離れ、どの大病院からも一時間以上を要する、医師確保困難地域にあります。赴任当時、臨床研修病院に指定されているにも関わらず、当院には研修医がいま「せん」でした。「若い医師がいけない病院に将来は無い」と強く思い、この事態に対しすぐに取り組みました。研修プログラムや受け入れ態勢の整備、指導医の育成、学生が見学に来た時にはほぼ全員に私自身が会って、説明をしています。

そんな関わりや関係者のご協力の甲斐あつて、七年目からは定員に対してフルマツチ。いまやありがたいことに、定員八名に応募者五十名という、人気の高い初期臨床研修先となりました。



▲当院を巣立った医師も立派になりました
(令和6年11月 研修医OB会)

医師の確保数としても、赴任当時には七十人ほどであったところも現在では百十名と一・六倍に増え、高度急性期を担う四〇〇床の病院に相応しい診療体制となりました。

医療を取り巻く環境の変化に遅れず対応すべき取り組みとしては、DPC（診断群分類包括評価）への変更、電子カルテの導入などが挙げられます。今やあたりまえになっていることではあります。導入当初の苦労が思い出されます。その他ハード面への対応では、休眠していた院内保育室の再開、患者の憩いの場が少ないという課題を解決するためのベーカーカーフェの設置があります。子育て中の職員も多く、家庭環境も様々であることから、多様な働き方へ対応できることは非常に重要です。託児所の再開のほか、赤十字の制度を利用した育児短時間労働の積極的な活用などのおかげで、働く職員への環境整備が認められ、埼玉県「多様な働き方実践企業（プラチナプラス）」、「深谷市女性活躍等推進事業所」に認定されました。それらが集大成として、男女が共同して参画することができる職場づくりに積極的に取り組んでいる事業所に贈られる、「埼玉県荻野吟子賞（いきいき職場部門）」を受賞しました。



▲「埼玉県荻野吟子賞」表彰式
令和6年 県知事公館にて



地域に欠かせない 公的な役割を果たして

当院は公的な役割としての政策医療（救命救急、災害、周産期、感染症、がん診療など）を行ってまいりますが、それらは必ずしも収益性の高い事業ではありません。

がん診療を例えると、大病院と比べ、当院には年齢が高く、合併症を抱える患者が多く受診します。都内の大病院へ何度も通院することができない方にとって、地域のセーフティネットとしての役割が必要で、当院はその機能を果たしています。救命救急についても、金子直之先生を招へいし、その機能が充実したものとなってきました。救急車にとって当院は最後の砦であり、三次救命救急センターとして欠かせない存在であり続けていると実感しています。

先に述べたように、政策医療の多くは経営的にも採算が取れず、人の配置も厳しいものであります。しかし地域に欠かせない診療機能であり、当院が果たすべき重要な使命であります。



▲救急ワークステーション事業
令和5年6月開始

このことを、千人近くいる当院の職員、関係者が意識して仕事をすることが大切であり、気持ちを向かせていくことに努めて参りました。

診療機能のレベル向上のため、ロボット支援手術（ダヴィンチ）の導入も実現しました。すべては、地域に欠かせない病院機能の実現のため、その歩みを止めることはできません。



これからの 深谷赤十字病院へ

私が院長に就任した際、病院理念や基本方針とは別に、分かりやすいメッセージ「やさしさのあふれる病院をめざして」というスローガンを掲げました。その目的として、ひとつは職員に対し、他者への思いやりや共感を忘れずに仕事をして欲しいということ、もうひとつは、大学やセンターなど巨大な病院には無い、ホスピタリティを中心として病院運営を行いたいという想いがありました。それらは私の行った病院経営に反映され、また評価をして頂いて参りました。

私がバトンを渡す次の世代の皆さんには、「深谷赤十字病院の優しさは強さ」であるとのメッセージを残していきたいと思えます。

医療経営には収益性の確保、医療の質の改善、DX化の推進、専門性の発揮など必要なものはたくさんありますが、優しさを失くした病院は、いずれ衰退していくでしょう。地域の皆さまに優しさを大切にしたい、心をこめた医療を提供し続けていきたい、これが私が伝えたい想いです。

消化管がん

低侵襲ながん治療を目指して

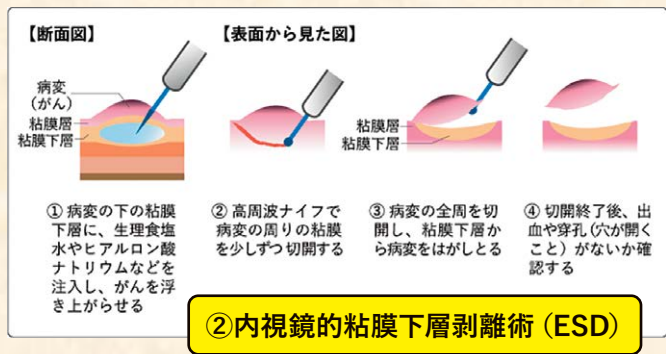
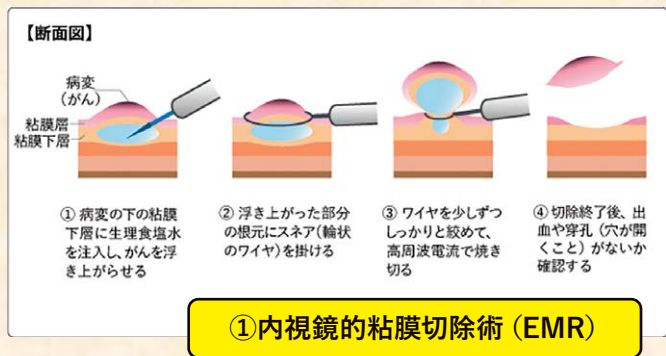
深谷赤十字病院 消化器科副部長 **葛西 豊高**



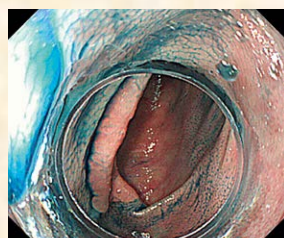
2024年のがん統計では日本人が一生のうちにがんと診断される確率は約50%（2人に1人）とされています。2020年のがん罹患数（約95万人）の部位別の順位は1位：大腸（約14万人）、2位：肺（約12万人）、3位：胃（約11万人）であり、大腸がんと胃がんでがん全体の約25%を占めています。

胃がんおよび大腸がんは早期に発見することにより根治が期待できるため、対策型検診（胃がん検診と大腸がん検診）や任意型検診（人間ドック）で定期的に検査を受けることが推奨されています。検査として胃ではX線検査と内視鏡検査、大腸では便潜血検査が主に行われます。がんが見つかった場合には、一般的に手術が可能であれば外科手術が行われます。

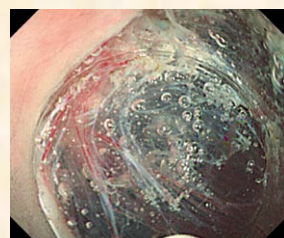
がんが粘膜内に留まる粘膜内がんと予測される場合には、より低侵襲な内視鏡治療が行われます。内視鏡治療は①内視鏡的粘膜切除術（EMR）および②内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が行われます（図）。



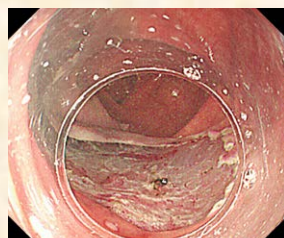
内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の一例【大腸ESD】



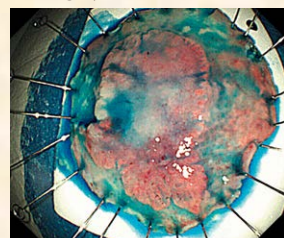
1:大腸に扁平隆起性病変を認めます



2:「デュアルナイフ」で粘膜下層を剥離しています



3:大腸癌切除後の潰瘍です



4:切除後の大腸癌の標本です

Key Person 葛西 豊高 KASAI TOYOTAKA

消化器科の葛西豊高です。

2008年に自治医科大学を卒業し、2011年にへき地勤務の一環として深谷赤十字病院に赴任しました。

赴任時に消化器科は川辺晃一医師が1人で奮闘している状況であり、もともと内視鏡検査に興味があったことから弟子入りをして消化器科医師になりました。

当初は消化器科医師の人数が少なく消化管診療が主でしたが、その後は消化器科医師が徐々に増えたことにより肝胆膵診療を行う機会もだいぶ増えてきました。

現在は消化器科医師7名および内科・外科・救急診療科・緩和ケア外科の先生たちと協力して消化器診療を行っています。

消化器科は食道がん・胃がん・大腸がん・肝がん・胆道がん・膵がんと数多くのがんの診療を担います。

胃がん・大腸がんは他のがんと比べて早期に発見をすることにより根治が期待できるため、地域のみなさんには機会があれば積極的に検診を受けて頂きたいと願っております。

がんが見つかった患者さんは、スタッフ一同、責任を持って診療に当たらせて頂きます。



認知症ケアチーム

高齢化社会に伴い、認知症を抱えている方の入院が近年増加している状況です。認知症の方は今までと環境が少し違うだけでも落ち着かなくなり、病気によりせん妄も起こしやすくなっています。そんな認知症の方々少しでも穏やかに入院生活を送ることが出来るように各職種の専門性を発揮し各部署に対してアドバイスを行っています。チームに関わる職種は、医師、看護師、MSW（社会福祉士）、心理師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフです。認知症ケアチームは身体抑制最小化チームも兼任していて、抑制を最小限にすることが出来るように取り組んでいます。

医師

誤嚥や転倒でADLが低下してしまうことがないよう、向精神薬や下剤の最小化・適正化のアドバイスを行っています。同時に今年度から特に、できるだけ身体拘束に頼らない方法がないか、現場の担当看護師も含めて多職種チーム内で検討、意見調整を行うようにしています。

看護師

入院生活を送るための環境調整、声掛けや対応を含む患者様への関わり方などを各部署のスタッフにアドバイスをさせていただいています。一番患者様に関わるのは看護師であり、看護師の関わり方で患者様が変わるかもしれないからです。



薬剤師

処方されている薬剤について、認知症やせん妄症状への影響を考え、患者さんの状態に合わせた薬剤調整を提案しています。使用薬剤についてチームで情報共有し、より良い認知症ケアに繋がられるよう心がけています。

社会福祉士

患者様の目線に立った支援ができるよう心がけています。社会福祉の専門性を生かし、患者様に適切な制度や社会資源の活用を案内しています。また、入院中から退院後も安心した生活を送れるよう検討・調整していきます。



リハビリ

毎週行われる回診では、リハビリ部門から作業療法士5人が交代で参加しています。

リハビリでの運動内容や日常生活動作の様子を確認し、回診中に報告しています。

必要に応じて離床の促進や運動内容の調整を行っています。

管理栄養士

食事摂取状況についてチームで情報共有し、食事内容や栄養補給方法の提案を行っています。認知症によって起こる食事の問題を考慮しながら食べやすい食事を考え、食事摂取量や栄養状態の改善を目指しています。

公認心理師

患者さんへの認知機能検査を行っています。認知機能検査は記憶力のチェックなど患者さんにとっては苦手な場合もありますので、検査の前には普段の生活の様子や趣味についてのお話を聞かせてもらうなど、少しでも安楽に受けていただけるように心がけています。そこでの会話や検査データから患者さんの認知機能の状態を確認し、よりよいケアにつながるヒントを提供しています。

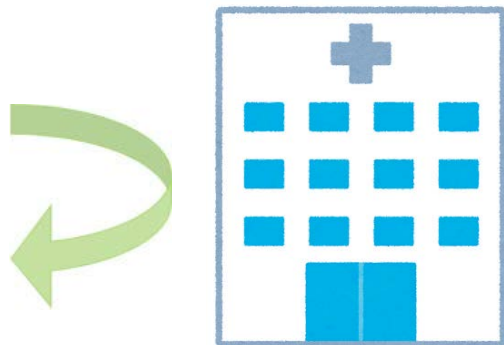
チーム活動の様子

毎週木曜日14時～回診はスタートします。4S病棟に集まり情報共有後各部署の対象者の方を訪問します。あらかじめ患者様の状態は電子カルテから情報を得ますが、直接顔を見て話をすることが大切です。回診後に各部署に対してアドバイスを行い実施していただきます。



地域医療連携だより

深谷赤十字病院は地域との医療連携に努めています。



当院は、初期診療や慢性の継続診療などは「かかりつけ医」の先生に診ていただき、専門的な検査や診察、また入院が必要な治療は病院が受け入れるという役割分担を行っており、地域の皆様が継続して適切な医療が受けられるような体制を維持しています。

毎号、医療連携にご協力いただいている医療機関を順次ご紹介しています。

楽仙堂病院

住所 〒366-0041 深谷市東方2100
電話 048-571-0205
院長 栗原 弘明
診療科 精神科、内科、心療内科、腎臓内科、人工透析内科
休診日 日曜、祝日、第2.4土曜、火曜午後、土曜午後
診療時間 午前9時～12時30分(受付時間12:15まで)
午後3時40分～5時30分(受付時間5:15まで)



院長先生からのメッセージ

当院は明治42年の開設以来この地で精神科を中心とした医療を行っております。心の病や認知症の方の外来受診や入院に関すること、退院後の環境調整などについてもご相談を承っております。また、人工透析の設備もございます。今後も深谷日赤との連携をさらにすすめてまいります。

いのクリニック

住所 〒360-0014 熊谷市箱田1-12-24
電話 048-528-8300
院長 井埜 利博
診療科 小児科、内科、循環器内科、アレルギー科
消化器内科、婦人科
休診日 木曜、祝日、火曜午後、日曜午後
診療時間 午前9時～12時 午後3時～6時



院長先生からのメッセージ

いのクリニックは0歳の乳児から100歳の老人まで全年齢での診療が可能で、19床の入院施設と9床の住宅型老人ホームを併設した有床診療所です。2024年6月からは婦人科外来を開設しました。また毎週土日には二診制で診療を行なっていますのでご利用ください。

<地域の皆様へのご案内>

当院を受診の際は、紹介状をご持参ください。

当院受診の際（初診時）は、他の医療機関からの紹介状（診療情報提供書）をご持参いただくことをお勧めします。

紹介状（診療情報提供書）をご持参いただいた場合は、国が定める初診時選定療養費（医科7,700円・歯科5,500円）のご負担がなくなります。



山田内科医院

住 所 〒367-0027 本庄市五十子1-5-22
電 話 0495-24-0108
院 長 山田 伸夫
診 療 科 内科、消化器科、循環器科、呼吸器科、アレルギー科
休 診 日 日曜、祝日、木曜午後
診 療 時 間 午前9時～12時 午後3時～6時30分
※土曜午後が2時～5時



院長先生からのメッセージ

総合内科専門医、消化器病専門医、肝臓専門医、内視鏡専門医、超音波専門医などの資格を生かし、かかりつけ医として内科全般に渡り診療しています。常に患者さん本位の医療を心がけており、専門的医療機関との連携を積極的に推進していますので、何でもお気軽に相談して下さい。

大塚歯科医院

住 所 〒360-0815 熊谷市本石1-16-3
電 話 048-522-1846
院 長 大塚 哲郎
診 療 科 歯科、小児歯科、矯正歯科、口腔外科
休 診 日 木曜、日曜、祝日
診 療 時 間 午前9時～12時30分 午後2時30分～7時
※土曜の午後は5時まで



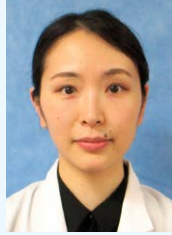
院長先生からのメッセージ

当院は昭和8年開院となります。

「患者様の歯を守る。口腔を守る。食事を守る。真に役立つ歯科医療を提供すること」を理念に、健康寿命の延長に寄与させていただけるような診療を心掛けております。

新任医師紹介

2月より、新しく1名の医師が
着任いたしました!



診療科：麻酔科
氏名：中田 惟
出身大学：産業医科大学

趣味：麻雀、晩酌
抱負：患者さんファーストの質の高い
周術期管理と円滑な手術部運営を目指します。



電子処方箋の 対応について

「電子処方箋」とは、これまで紙で発行していた処方箋を電子化し、医療機関・薬局が患者さんのお薬情報を電子データでやり取りすることができます。

令和5年1月26日より電子処方箋管理サービスの運用が開始され、当院も3月末までには稼働させる予定です。

電子処方箋を利用するメリット

- ①複数の医療機関・薬局間で情報共有が可能!
- ②患者さん自らがお薬情報を確認できる!
- ③処方箋原本を電子的に受け取ることが可能!

順次開始となるため、各診療科や医師によって対応が異なる場合がございます。
詳しい内容につきましては、
次号でご紹介します。

～読者アンケートに是非ご協力ください～

皆さまへより良い情報提供ができる誌面づくりを目指しております。
本誌に対するアンケートにご協力いただいた方には赤十字グッズ(左掲写真)を差し上げます。



※プレゼントは変更になる場合がございます。

アンケートはこちらのQRコード
もしくはURLから!
(アンケートサイトに飛びます)



1分でできる
簡単なアンケートです!

<https://questant.jp/q/nisseki82>

深谷赤十字病院の理念と基本方針

理念

人道・博愛の赤十字精神のもと、地域の皆様の健康を守り、信頼される医療を提供します

- 基本方針
- 1 医療人として生命倫理を最大限尊重します
 - 2 医療の質の向上に努めます
 - 3 患者中心の医療を行います
 - 4 地域との医療連携に努めます
 - 5 災害救護と国際活動に貢献します
 - 6 健全経営による働き甲斐のある病院を目指します

深谷赤十字病院臨床研修の理念と基本方針

理念

医師としての人格を涵養し、将来専門とする分野にかかわらず、医学および医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁にかかわる負傷または疾病に適切に対応できる診療能力を身につける。

- 基本方針
- 1 基本的診療能力及び基本的価値観(プロフェッショナリズム)の修得
医師として将来専門とする分野に関わらず必要な基本的診療能力及び医師としての行動を決定づける基本的価値観(プロフェッショナリズム)を修得する。
 - 2 患者の立場に立った医療を实践
医師として患者から人間としても信頼される思いやりの心を持った謙虚な医療人となり、患者の立場に立った医療を实践する。
 - 3 チーム医療の实践
チーム医療の大切さを理解して病院内の他職種と連携を密にしてコミュニケーションを取りながら安全な医療を提供する。
 - 4 地域医療に貢献
地域の中核病院としての役割を理解し、地域医療に関心を持ち、地域医療の現場を経験する。
 - 5 赤十字病院の責務と理解
赤十字病院として公的病院の責務や災害時における医療救護活動を理解する。
 - 6 生涯学習の継続
質の高い医療を提供できるよう、生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を实践し、医療技術の習得に努める。また、後輩を育成することによって自らが学が姿勢を有する。



深谷赤十字病院

〒366-0052 深谷市上柴町西5丁目8番地1
Tel 048-571-1511 (代)
<https://www.fukaya.jrc.or.jp>

Vol.82 令和7年2月18日発行
編集発行：深谷赤十字病院
広報・公聴委員会